

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この夏のはじめ、ぼくが小さい息子と街を歩いていると、じつに威厳のある犬にひきずられながら、あまり威厳のない青年紳士が、汗まみれで駆けてきた。そこでぼくは、軽はずみにも小さい息子に現実生活について知識をあたえようとして、こういった。

—②あの紐のまえのが犬で、紐のうしろのが人間だ。

ところが、これを小耳にはさんだ人間の方が、④憤然として、ぼくに喰つてかかりはじめたのであった。その間、犬の方は、しばらく紐をひっぱつてもがき、人間をよるめかせたりはしたものの、やがて悠揚せまらず脱糞をはじめ、とくにぼくに敵意を示すというのではなかった。

なぜ、かの人間は怒り、かの犬は怒らなかつたか？ もしかしたら、犬散歩係の青年紳士は、自分のことを、犬を支配しているのではなく、犬に拘束されているのだと感じて、苛だちながら、汗水たらして駆けてきていたのではあるまいか。人間と犬の間の、ぴんと張った紐は、じつは犬を縛るものではなくて、人間を拘束するためのものではないかと、内心気にかけて駆けつづけていたのではあるまいか。そこで、ぼくの、きわめて個人的な家庭教育の片言隻句を聞きとがめ、憤激したのではなかるうか？

ぼくはこの怒れる青年紳士にあやまるべき言葉をみつけかねて、⑤深く困惑した。しかしぼくは前言をひるがえし、こう訂正すべきであったとは思わない。それだと、かれを、もつと怒らせてしまったであろう。

—①実際はあの紐のまえのが人間で、紐のうしろのが犬だったのさ！

われわれ人間は、とくに做りたかぶつていた時代においてでないかぎり、たびたび、人間と動物との支配関係を逆転することで、人間的なるものを研究する方法を模索してきたように思われる。ぼくは時どき、ある三葉の絵をとりだして眺めるが、それらはすべて、人間と動物の関係の逆転について、滑稽かつ悲惨な効果をあげていて、すなわち人間的なるものについて反省を強いるところのある絵である。これらの絵は、ポン・ロワイヤル版『人間と動物、その共同生活の十万年』という大きい絵本にふくまれているのであるが、そのうちの二葉は、一八二〇年ころのフランスの版画で、ひとつは鳥に銃撃されている狩猟家、もうひとつは馬をのせた四輪馬車をひいている人間たちの絵である。題してひっくりかえった世界という。三葉めはゴヤの、フアンタステイクな美しいデッサンで、考え深そうな驢馬の医者^{ろば}が病人を診察している。病人は、なんとなく絶望した、また、驢馬の主治医にまかせきつた、そういうった様子の中年男である。これらの絵の秀れている所以は、それらが常に知的遊戯、あるいは観念的な思いつきの印象を越えて、具体的、实际的に、こうしたこともあるかもしれないなあ！と嘆ぜしめるところがある、という点である。とくに驢馬の医者など、明日にでも、病にたおれたぼくの部屋をおとずれそうな気がするし、そのときには、ぼくもこの病人と同じく、ぐったりして憐れな様子をして驢馬先生の診断をおおぐだろ、と感じさせるような実感とともにゴヤはえがいている。

あの忿懣^{ふんまん}にたえない青年紳士と、脱糞する犬とに対して、こういうふうにいっただとしたら、僕の困惑しきってペシミステイクとなった気分にもっともふさわしかったかもしれない。

—人間よ、犬よ、ぼくには、あなたがたのどちらがどちらだか、実際のところはっきりしていないようです。いくらか確実なのは、あなたがたの間で緊張している紐の存在だけだ。むしろぼくはこういうふう^②に息子に教えるべきでした。②あの真中のが紐、前後に拘束されているのが、人間と犬、あるいは犬と人間！

問一 傍線部④の文で「青年」が「憤然として」喰ってかかった理由は何か。日常レヴェルでふつうに考えられる理由を二十五字以内で答えなさい。

問二 傍線部⑥で、筆者が「深く困惑した」本当の理由は何か。最も適当と思うものを次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 即座に適当なお詫びの言葉が見つからなかったから。

イ 軽はずみなことを言ってしまったって、思いがけず青年の剣幕に気圧されたから。

ウ 実際は犬の方が堂々としていたので、波線部⑦の文のように逆に言うべきだったから。

エ 犬と人の、説明のしにくい関係性を意識したから。

オ 犬を散歩させている、青年のあまりにやりきれない立場に同情したから。

問三 三葉の絵では、筆者は、支配関係の逆転によって表現されているものの中で、何に最も強い印象を受けたか。次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 関係性の不安定さ、あるいは人間存在の不確かさ。

イ 現世を越えた、異次元世界。

ウ 人間も動物の苦勞を知るべきだという、動物愛護精神。

エ ファンタジーの世界。

オ 本来あるべき、調和の世界。

問四 本文は内容的にも、語法的にも起承転結がはっきりしている。それぞれ区切りの箇所を初めと終わりの語句で答えなさい。

問五 波線部⑦と⑩に示される支配関係を簡潔に説明しなさい。

問六 次の文の空欄に本文中の語を補い、波線部⑨の文の説明文にせよ。

波線部⑨の文は、⑦、⑩の文に比べると、①に対する視点が強められており、そのことによって両者の②よりも、むしろ両者が③存在であることに注意が向けられている。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- | | | |
|-----------------------|--------------|------------|
| ① 同志を <u>キユウゴウ</u> する | ② シシをのばせ | ③ コウキある伝統 |
| ④ シンズイをきわめる | ⑤ チョウイを述べる | ⑥ ザンギヤクな行為 |
| ⑦ ショウゲキを受ける | ⑧ ショクタクとして働く | ⑨ 樹木をジイクする |
| ⑩ ゴウチヨクな人 | ⑪ タクエツした考え | ⑫ キドウ修正する |
| ⑬ 産婆役を務める | ⑭ 先遣隊を出す | ⑮ 秩然として並ぶ |
| ⑯ 荒野を歩く | ⑰ 尚武の気風 | |